

## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成31年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 85人

② 算数 85人

#### 5 留意事項

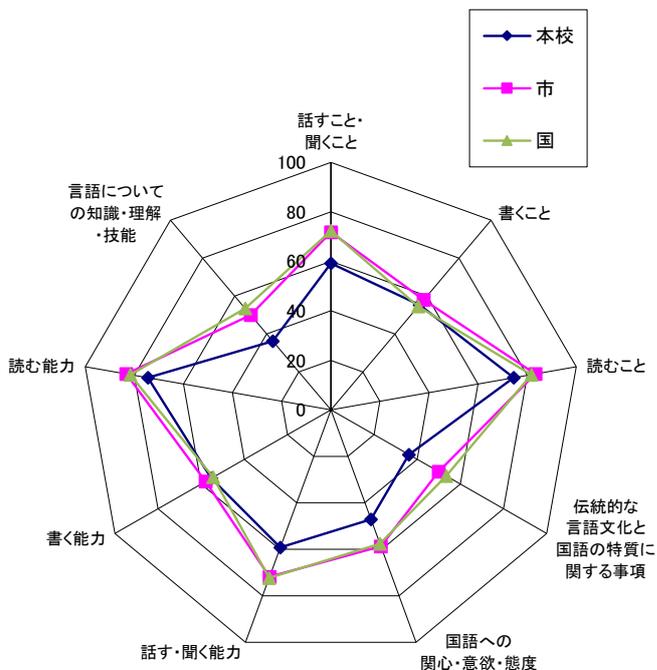
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立横川西小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	59.2	71.8	72.3
	書くこと	55.3	58.0	54.5
	読むこと	74.5	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	36.2	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	47.1	58.7	57.6
	話す・聞く能力	59.2	71.8	72.3
	書く能力	55.3	58.0	54.5
	読む能力	74.5	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	36.2	50.0	53.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

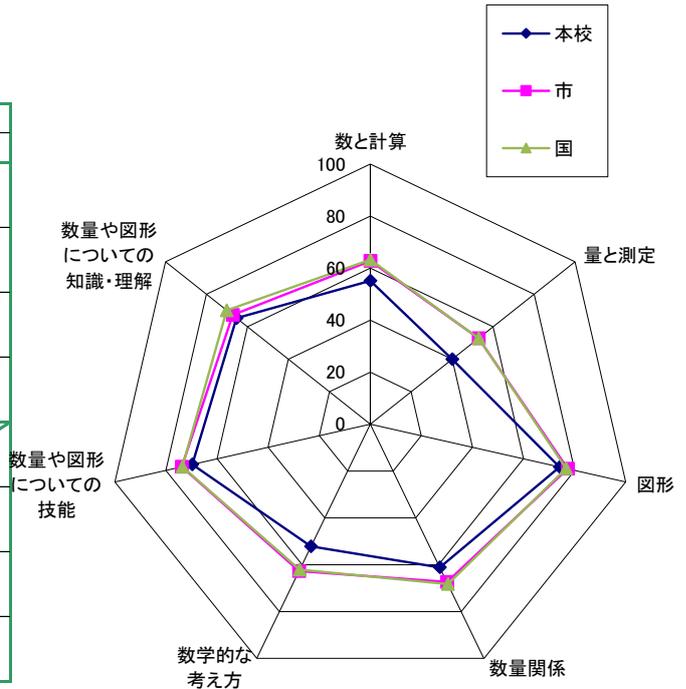
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○インタビュー中の前後の流れから、質問の内容を選択する問題への誤答の割合は、市の平均と同程度であることから、話の内容のだいたいをつかむことはできている。</p> <p>●無回答率が、市の平均と比較して高い。特に、インタビューのまとめを伝える記述式の問題については、無回答率が28.2%であった。また、記述の条件に合わない解答をした児童の割合が12.9%であった。</p>	<p>・国語科での「話すこと・聞くこと」の単元学習では、質問したり議論をしたりする授業を行っている。今後、自分の言葉で相手の話をまとめる学習を継続することで、話の要点をまとめる力を高めていきたい。また、どの教科においても、単元ごとの振り返りを書く際に、キーワードを提示して記述させることで、条件に合わせて書くことに慣れさせていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均と同等である。</p> <p>○報告する文章に使用されている資料の目的を選ぶ問題や、文章での工夫として適切なものを選ぶ問題での正答率は市の平均を上回っている。</p> <p>●記述式での解答については、市の平均を下回っている。記述の条件3つのうち、「ふさわしい表現」で書けていない解答の割合が市の平均より多かった。</p>	<p>・文章中の資料として掲載されている写真や図・表などの目的をしっかりと理解できていることから、これまでの「書くこと」の単元や説明文の単元での指導を継続していく。</p> <p>・「なぜなら、～からです。」といった呼応した文章で書いていないものや、敬体で書かれた文章に合わせて書かずに常体で書いてしまった誤答が多いことから、呼応の表現や常体・敬体をそろえて書くということを低学年から繰り返し指導することで意識を高めたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●資料として提示された文章から、目的に合わせて読み取ったことをノートにまとめていくという形式の設問に対する正答率は、選択式の問題でも記述式の問題でも市の平均を下回っている。</p>	<p>・文章の内容を的確に押さえることに苦手意識があることが分かる。国語科の説明文の単元では、筆者の意見や考えについての読み取りに課題があると考えられる。文章全体の構成を把握できるように、構成図を書くという授業を今後も継続していく。さらに、構成をつかめるようになるためには、一文一文に意味があるという意識が必要である。授業の中で音読を繰り返すことで、文章を構成する一文、一段落を意識させていきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●漢字を正しく書けた児童の割合が、市の平均を大きく下回った。同音異義語「たいしょう」「かんしん」での誤答が多い。無回答率についても、漢字の書き問題すべてで、市の平均より高かった。</p>	<p>・それぞれの学年に配当されている漢字をその1年で定着できるようにするため、授業の最初の5分を漢字練習に充てるなどの工夫をしていく。また、同音異義語の指導については、日常的に文章の中で適切に使うことができるようにするため、漢字のもつ意味を意識させることで正しい漢字を書けるようにしていきたい。</p>

# 宇都宮市立横川西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.1	62.7	63.2
	量と測定	40.0	52.9	52.9
	図形	74.1	77.3	76.7
	数量関係	61.2	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.2	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	69.7	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	65.3	67.2	70.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、全国平均を8ポイント下回った。</p> <p>○加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題では、全国平均と同等の正答率であった。</p> <p>●一方の数量がもう一方の数量の何倍であるかを読み取る問題では、全国平均を13ポイント下回った。</p> <p>●複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題では、全国平均を13ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算プリントや計算ドリルに繰り返し取り組ませ、様々な計算の技能を確実に身に付けることができるように支援する。</li> <li>・問題を解く上で、共通するものや違うものをより分けて考える思考の仕方を体験させ、問題を解決するための着眼点に気付けるようにする。</li> <li>・数量の比較をさせる単元では、テープ図を活用し視覚的に比較ができるようにする。</li> </ul>
量と測定	<p>平均正答率は、全国平均を12ポイント下回った。</p> <p>●場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する問題では、全国平均を17ポイント下回った。</p> <p>●示された図形の面積の求め方を記述で説明する問題では、無回答が14ポイントとなった。また、正答率でも全国平均を11ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位量あたりの問題では、数直線を使い視覚化して問題を解くことを定着させ、問題の解き方の幅が広がるように支援する。</li> <li>・問題場面にある多くの情報から必要な数量を見いだすことができていることが考えられる。問題場面を理解できるように絵や図で示したり、必要な情報を選べるように解決のための見通しをもたせたりという授業展開を行っていく。</li> <li>・自分の考えをノートに書かせるだけでなく、ペア活動での発表を取り入れることで根拠となる事柄を説明できるようにする。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、全国平均を2ポイントとやや下回った。</p> <p>○図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題では、全国平均とほぼ同等であった。</p> <p>●台形の特徴を理解して図形を選ぶ問題では、全国平均を5ポイントとやや下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の特徴を平行や垂直という用語を使って書き表したり、説明をペアでし合う活動を取り入れ、定義や性質、公式の理解が深められるようにする。</li> <li>・平面図形や立体図形の面や辺の位置関係を、操作活動を通して理解できるように支援する。</li> </ul>
数量関係	<p>平均正答率は、全国平均を7ポイント下回った。</p> <p>○目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす問題では、全国平均とほぼ同等であった。</p> <p>●資料の特徴や傾向を関連付けて、一人あたりの量の増減を判断しその理由を記述する問題では全国平均を11ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活場面の中で割合に着目させ、単位量あたりの大きさを基に考える有用性が実感できるように支援する。</li> <li>・資料から読み取れることや数値から考えられることを考えられるようにキーワードを提示して言葉で説明する活動を取り入れ、判断できるようにする。</li> <li>・二つの数量の関係を図式化する作業を取り入れることで、割合が全体の中のどのくらいかを考えられるように支援する。</li> </ul>

# 宇都宮市立横川西小学校 第6学年 児童質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」に対して児童の肯定的回答が95.4%であり、全国の割合より4.2ポイント高い。また「算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」に対して児童の肯定的回答が93.0%であり、全国の割合より0.5ポイント高い。5年生までに受けた授業で、国語や算数の学習内容が将来の役に立つと実感できた児童が多いことがわかった。今後も役に立つと実感できる授業づくりを心掛けたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」に対して児童の肯定的回答が70.9%であり、全国の割合より10.3ポイント低い。

●「将来の夢や目標をもっていますか」に対して児童の肯定的回答は74.4%で、全国の割合より9.4ポイント低い。この結果から、自己肯定感が低い傾向がある。肯定感を高めていくために何が必要か考えながら、道徳や各教科の授業、縦割り班活動などの異学年交流など学校生活全般を通して、自己肯定感を実感できるように指導していきたい。また自分に対する肯定感を高めながら、総合的な学習のキャリア教育を通して、将来の夢や目標をもてるような指導をしていく。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して児童の肯定的回答が51.1%であり、全国の割合より20.4ポイント低い。

この結果から、計画を立てて学習を行うことができていないことがうかがえる。今後とも、継続的な自主学習への取り組みを奨励していくとともに、さらに、テストやプリントで間違えた問題を解き直したり、授業のノートを自分なりにまとめ直したりするといった具体例を提示し、一人一人が取り組むべき課題を決めて、いろいろな教科を計画的に学習できるように声かけを行っていく。

## 宇都宮市立横川西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着を図る工夫	宿題の内容を工夫したり、3～6年生の自主学習用に「家庭学習のヒント集」を配布したりして、学年に応じた目標時間取り組んで、提出するよう指導している。	家庭学習の目標時間を高学年は1時間以上を目標時間として設定しているが、1時間未満と回答した児童が約53%であった。宿題の提出はきちんとできる児童が多いが、自主的に計画を立てて学習することへの意識が低いと考えられる。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どの教科であっても、記述式で解答する問題や短答する穴うめ問題への無回答率が市の平均と比べて高い。	授業中のまとめ、振り返りの方法を改善する。	授業の最後に行うまとめを児童が自分の言葉でまとめるようにする。各学級の実態に応じて、キーワードを示すなどの工夫をして実践していく。また、振り返りについても、具体的な授業の場面を思い起こさせたり、理解できたこと、できなかったことを自分でしっかりと振り返らせたりすることで、自分の言葉で書くという習慣をつけさせていきたい。